

## メダン派遣感想

齊藤ちひろ

今回のメダン市派遣を経て、様々な出来事がありました。笑って泣いて喜んで、派遣期間中の十日間は充実した濃い内容を経験し、日本では体験できないようなことに触れることができ感謝しています。共に同行したメンバーも全員よい友人になれたと思っています。

さて、インドネシアで印象に残ったことといえば、最初に私は匂いが違うと空港から降りた瞬間感じました。それは日本とは違う土、気候だからでしょうか、私は詳しくはわかりませんが、初めて海外に行くという私にとってインドネシアは不思議な世界のように感じられたのです。

派遣前、派遣生皆で話し合っていたことがありました。インドネシア料理の事です。海外の料理というはまだ何も知らない私たちは、想像を膨らませとても楽しみにしていました。実際、ホテルやホストファミリーの家で食べたインドネシア料理はとてもおいしいものでした。かなり辛いのもありましたが、辛くないナシゴレンやインドネシア料理に必ず出てくるチップスは私の大好物となりました。しかし、どうにもフルーツの王様であるドリアンは苦手らしく、シンガポールで初めて食べたときも正直このフルーツのどこがいいのだろうと苦々しく考えていて、初めてホストファミリーの家に泊まった時の夕食にも出てきました。ホストファミリーのお父さんとミラという私よりも一つ年上の女の子と一緒に夕食へ連れて行ってもらった時の事です。デパートには何軒もレストランが立ち並んでいて、私たちは中華料理屋さんの中へと入って行きました。そこで驚いたのが、メニューにのっているのはメインメニューだけであって、前菜や焼売などの小皿の食べ物はすべてウェイトレスさんが運んでいて、客はその中から食べたいと思ったものを示し、最後に会計をする、というしくみです。会計の仕方もレシートの挟んだケースの中にチップを入れたままにしておく、という日本にはない会計の方法でした。そしてお父さんが注文したデザートの中にドリアンが含まれていたのです!!最初はドリアンだとは気付きませんでした。シンガポールで口にしたドリアンは、黄色の円筒形をしていましたが、中華料理屋ででてきたドリアンは多分、匂い消しのものでしょうか、ピンクや黄緑といったカラフルな皮に包まれて運ばれてきました。一見おいしそうに見え、ホストファミリーの家族がレツツライと声をかけてきてくれるので私は挑戦することにしました。結果はやはり苦手なものは苦手なようで、克服することなく終わってしまいましたが、そのあと出てきた日本の甘いサツマイモのようなものはとてもおいしかったです。

私がお世話になったホストファミリーは本当に大きな家を持つ家族でした。家族構成はお父さん、お母さん、お姉ちゃんが一人とミラと弟が一人いる五人家族です。それにお手伝いさんと叔母さん、警備員さんもいて驚きました。家の内装も豪華で驚き、玄関先に噴水があって鯉が泳いでいたり、壁は大理石で監視カメラの映像が見れる、まるでカフェのカウンターのような場所もありました。

部屋も一部屋ずつに個室があり個室とシャワーと洗面台がついている、まるでホテルのようなきれいな家でした。

時間があるとき、ミラから家族写真を見せてもらいました。彼女のお母さんは写真を撮るのが趣味なようで、アルバムがたくさんありました。

まだ皆が小さい時の写真やミラがマレーシアに行った時のもの、お母さんが日本に来て国際交流課の人達と交流していたことを知りました。

話を聞くと、今はお父さんとミラとお母さん三人で家に住んでいて、弟とお姉ちゃんはメダン市ではなく別の市から学校に通っているそうです。派遣期間の途中からお姉ちゃんは帰ってきましたが、ミラとそっくりな顔立ちをしていたので兄弟って似るんだなと改めて思いました。お母さんは市内の病院で働いている為忙しく、夜に帰ってきたりとあまり姿を見ませんでした。夜停電が起きたときかなり心配していただいたようで、嬉しかったです。

家で印象に残ったことと言えば、ステイ先の家だけでなく周りも環境に順応している構造がすごいなと感心したことがあります。お昼あたりにスクールと呼ばれる突然やってきて突然終わるゲリラ豪雨のような雨がインドネシアでは降ることがあるのですが、夕方にお父さんの運転する車で帰ってみると、家の前の道路が水浸してふくらはぎまで達していました。何事かと私が尋ねると、ミラは家と道路との間の用水路がスクールによって逆流したと言っていました。こちらへんではよくあることだそうで、道路を歩く人も普通に裾をたくし上げて歩いていました。そこで私がすごいなと思ったことが門と道路のつなぎ目にスロープがあり、車でそこに乗り上げて足には水が付きませんでした。よく見ればちゃんと家も高い位置に建ててあるので、こういったことも頭の中に入れて家を作る人はつくっているんだなあと思いました。

派遣を経て、今回私が一番感じたのは英語力の乏しさです。向こうの学生は私とほぼ同年代だというのに、英語が流暢で驚きました。簡単な受け答えこそ私もできたものの、それは精一杯で悔しいことが多かったです。しかし、この経験は失敗ではなかったと思います、このような経験があるからこそ日本の良さが分かり、外国の良さも分かる。経験に無駄な事なんてありません、国際交流の学生会に入ったことでいい仲間とも巡り合えてとてもよかったと思っています。次に海外に行くようなことがあれば、この失敗を成功に変えて挑んでいきたいと思っています。